

# 保育現場と連携した女子学生のキャリア形成

— 職場体験プログラムからの一考察 —

The Carrier Development of Female Students Cooperated  
with the Childcare Spot  
-A Study from Work Experience Program-

前 田 美 樹  
森 山 洋 美  
松 橋 恵 美  
大 沢 陽 子

# 保育現場と連携した女子学生のキャリア形成

## — 職場体験プログラムからの一考察 —

### The Carrier Development of Female Students Cooperated with the Childcare Spot -A Study from Work Experience Program-

前田 美樹\* 森山 洋美\*\* 松橋 恵美\*\*\* 大沢 陽子\*

Miki MAEDA\* Hiromi MORIYAMA\*\* Megumi MATSUHASHI\*\*\* Yoko OSAWA\*

\*青森中央短期大学幼児保育学科 \*\*青森中央短期大学食物栄養学科

\*\*\*認定こども園百石幼稚園

\*Department of Infant Education, Aomori Chuo Junior College

\*\*Department of Food Dietetics, Aomori Chuo Junior College

\*\*\*Momoishi Kindergarten (Centers for Early Childhood Education and Care)

Key words：職場体験 キャリア形成 職業意識

#### I. はじめに

青森県では、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(以下COC+)において若者の地元定着率を高めることを目的とした様々な検討会やシンポジウムなどの継続的な試みが行われている。その一連である「教育プログラムの開発：女子学生のキャリア支援ワーキンググループ」においては、これまでに、平成29年度に全県的に実施予定となる学生の意識調査のためのアンケート項目の検討と模擬的实施、ワークショップ等を開催し、専門職として働く学生の意識向上と地元定着のための課題検討を継続的に行っている。

現在、青森県の保育現場では、認定こども園の増加等に伴って求人が増えているにもかかわらず、新卒者の県外流失による働き手の不足が大きな課題となっている。しかし、保育分野での職場体験やインターンシップといった、地元の園と学生とをつなぐ学びの場を「実習」以外に設定することは、時間的な問題等により短期大学等において難しい現状といえる。

実習とは異なる職場体験をすることは、幼稚園教諭、保育士、栄養士といった専門職で働くことの視野を広げ、働く女性を支援する場としての園の理解を深め、地域で働くことの意義についての学び

に繋がる。また、専門職で働く女性と将来の自分を照らし合わせることで、家庭や職場における自分について、より具体的なイメージを持てるのではないかと考えた。また、保育現場と学生、養成校との意見交換を設定することで、働くことへの不安や疑問の軽減、就職活動にむけた課題の発見、地域における「現場」、「学生」、「養成校」の間にある課題が明らかになるのではないかと仮説をたてた。

このように県内の幼稚園、保育園の協力を得て、家庭や職場、地域とのかかわりにスポットをあてた学びの場を設定することで、専門職で働く女性としての生き方と地元で働く意義、学生と現場の意識のギャップや課題を見出すことができるのではないかということが、研究の動機となっている。また、これらの意識やギャップを明らかにすることは、学生だけではなく職場や養成校においても育成、働き手の獲得の手立てのひとつとして提言できると考えられる。

そこで本研究ではCOC+の教育プログラムの関連研究として、幼稚園教諭、保育士、栄養士という専門職にターゲットをしぼり、職場体験を通して学生と保育現場とのギャップおよび課題を明らかにすることとした。さらにその結果を基にした職場体験プログラムの内容を検討し、保育現場での実践、専門職としての働き方やワークライフバランスについての学びの他、女子学生のキャリア支援のあり方の可能性を検討することとした。

## II. 実践内容

### 1. 職場体験プログラムの設定

実習とは異なる視点での学びの場を設定するため、図1の構造ブロックをもとに内容を検討した。

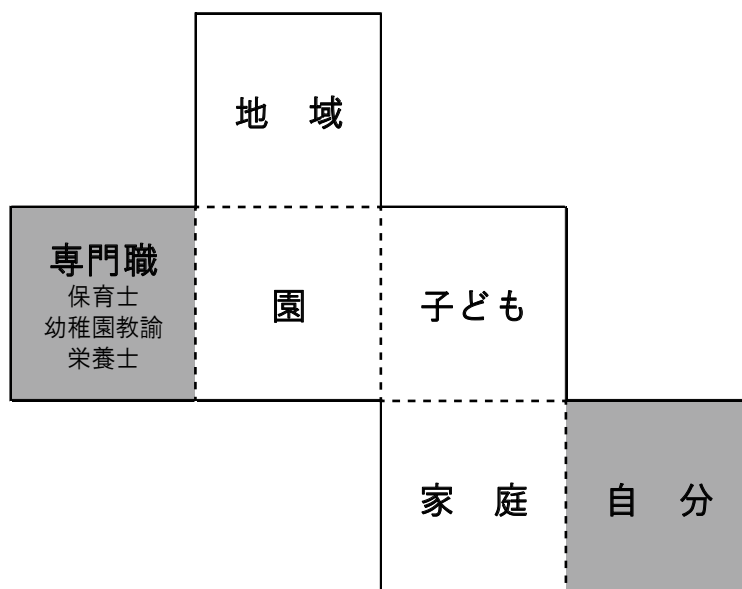


図1 園での職場体験における学びの構造ブロック

**【図1】 園での職場体験における学びの構造ブロックの捉え方**

各ブロックは隣り合うブロックへ行き来する存在でもあり、6つのブロックは様々な方向性をもって行き来する事となる。その結果、6つの視点について学ぶ事は、女性として地域で働くことの意義、家庭との関わりを考えるきっかけとなる。

学びの場を【園】に設定することで、濃いブロック：【自分】と【専門職】をそれぞれ入れ替えてイメージすることが可能となり、仕事と家庭の両立、ライフワークバランス、専門職としての課題、地域のサポートと暮らしについて考える機会となる。

2. 対象学生及び事前オリエンテーション

1) 対象学生

食物栄養学科1年2名、幼児保育学科1年6名 計8名

2) 事前オリエンテーション

「職場体験の手引き」を作成し、職場体験の目的や職業人としての学びの観点についてオリエンテーションを実施した。職場体験に向けた質問や自己課題の抽出としては、事前アンケートを実施した。また、アンケート結果を職場体験実施園に報告し、教職員からの回答を一部反映させて研修プログラムを構成した。

3. 研修内容

1) 日時

平成29年3月9日(木)～3月10日(金) 2日間

2) 研修先

おいらせ町 A 幼稚園及び B 保育園

3) 研修内容

保育現場での職場体験、保育施設教職員との意見交換など

4) 倫理的配慮等

職場体験実施園施設長及び職員、園児保護者、学生に対し職場体験の趣旨、内容、倫理的配慮等を説明し、同意を得た。また、本研究は青森中央短期大学倫理審査部会の承認を得て実施した。

4. 事前課題及び質問について

事前オリエンテーションの際に実施した事前課題及び質問の内容については、学生と保育現場のギャップを探る手がかりになると判断した。この質問事項に対し、職場体験実施園の教職員から事前質問に対する回答を得るとともに、学生との意見交換及び職場体験プログラムの内容に反映させる事を目的として実施した。

学生による事前質問の内容は、表1に示したように、「仕事の内容」、「人間関係」、「ワークライフバランス」、「環境」、「その他」の5つに分類した。【表1参照】

【表1】 学生の職場体験に向けての事前アンケート

項目	内容
仕事について (25 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 日の仕事時間 (2)</li> <li>・ 1 年目の仕事内容 (2)</li> <li>・ 初任で担任になった場合、仕事をこなせるのか</li> <li>・ 早番、遅番、中番のそれぞれの利点</li> <li>・ 日誌や指導案などの書類仕事について (その量や内容)</li> <li>・ 毎日仕事をするうえで、常に気持ちを高く持つポイント</li> <li>・ 働いていて苦労した事はなにか</li> <li>・ 活動で使うもの (主に制作物) はいつから準備するのか</li> <li>・ ピアノが苦手な場合どうしているのか (2)</li> <li>・ 壁面制作</li> <li>・ お遊戯会のダンスや衣装は保育士が考えて作っているのか</li> <li>・ 幼稚園教諭と保育士の働き方の違い</li> <li>・ 保護者とのやりとり、コミュニケーション<sup>※</sup></li> <li>・ モンスターペアレントと呼ばれるような保護者はいるのか、また、そのような保護者と上手く付きあえるのか<sup>※</sup></li> <li>・ 子どもと触れ合う機会があったときに上手くコミュニケーションをとることができるか<sup>※</sup></li> <li>・ 今まであったトラブルとその内容、対処法</li> <li>・ 虐待をしてしまう親も少なくないと思うが、対策としてどのような事があるのか</li> <li>・ 食事補助</li> <li>・ どのようにして献立を考えているのか</li> <li>・ アレルギーのある子にはどう対処しているのか</li> <li>・ 子どもと一緒に給食を食べてみたい</li> <li>・ 子どもが嫌いな食べ物をどのように食べさせているのか</li> </ul>
人間関係 について (6 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間関係について (2)</li> <li>・ 人と上手に関わるには</li> <li>・ 保護者とのやりとり、コミュニケーション<sup>※</sup></li> <li>・ モンスターペアレントと呼ばれるような保護者はいるのか、そのような保護者と上手く付きあえるのか<sup>※</sup></li> <li>・ 子どもと触れ合う機会があったときに上手くコミュニケーションをとることができるか<sup>※</sup></li> </ul>
ワークライフ バランス について (9 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休みはとれるのか</li> <li>・ 結婚して子どもができれば仕事はどうするのか</li> <li>・ 勤めていて家族と過ごす時間は少ないのか</li> <li>・ 結婚・出産後仕事に復帰できるのか</li> <li>・ 家庭との仕事の両立はできているのか (制作物など持ち帰りの仕事について)</li> <li>・ 仕事と育児の両立はできていたか、またどうしていたか</li> <li>・ 結婚・出産後の働き方はどう考えていたか</li> <li>・ 産休、育休で休んでも仕事に戻ることはできるのか</li> <li>・ 仕事と家事、育児の両立で大変だったことは何か</li> </ul>
環境について (6 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 方言の違い</li> <li>・ 一人暮らしについて</li> <li>・ 県外と県内の利点と欠点</li> <li>・ 青森県で保育士として働いて一人暮らしをしていく余裕はあるのか</li> <li>・ なぜ青森で働こうと思ったか</li> <li>・ 地域と協力して子どもたちの活動につなげることの良さ、難しさ</li> </ul>
その他 (2 件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年目が不安</li> <li>・ 特に気をつけていること</li> </ul>

※印のコメントについてはどちらの項目にも当てはまるため、重複して記載した

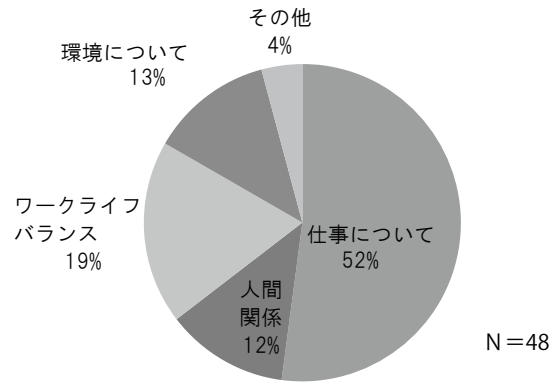


図2 学生からの事前質問内容

仕事の内容の質問については、「1年目の仕事内容」、「1日の仕事の時間」等といったものから、「壁画制作」、「日誌等の書類仕事について」等の専門的な仕事内容に関する質問が全体の50%以上を占めた。

人間関係についての質問は12%であったが、職場における教職員関係から保護者との関係、対子どもとのコミュニケーション不安も挙げられた。

ワークライフバランスについての質問は18%であった。結婚・出産後の職場復帰に関するものや働き方について等、仕事と育児の両立に関する不安等が多く、女子学生が女性としての生き方に対しての具体的な実践モデルに関心が高く、知りたいという意識が強いことが明確となった。

環境については、一人暮らしについての不安や処遇に関する質問、青森で暮らすことや方言について、県外と県内の利点と欠点について等の質問があった。

その他では、漠然と「1年目が不安」であるというものや、「特に気をつけていること」といった質問も挙げられた。

幼児保育学科の学生は、1年次の実習を経てからの職場体験となったため、実習での「子ども」を中心とした視点から、職場体験での「保育者」視点への転向が事前質問の段階からみうけられた。食物栄養学科の学生は、栄養士としてインターンシップや学外実習で保育園等に参加する事もあるが、その場合は「子ども」と触れ合うことが中心ではないため、「子どもとのコミュニケーション」といった、「子ども」視点での捉え方が事前質問の段階で挙げられたことは、幼児保育学科の学生とは対照的で興味深い傾向であった。幼児期からの食育活動が求められる現代社会においては、子どもの発達に合わせた食支援が必要である。対象者をより理解するためにも、栄養士を目指す学生にとっては子どもや保護者とのコミュニケーションスキルは必須であると考えられる。職場体験等を通して、実際の乳幼児との触れ合いの中で向上すると考えられるコミュニケーションスキルは、食育の根本的な理解を裏付ける力にもなり得るのではないかと考える。

## 5. 教職員からの事前回答

職業体験実施園教職員から事前抽出した回答についても、同じく「仕事の内容」、「人間関係」、「ワークライフバランス」、「環境」、「その他」の5つに分類した。回収データから抜粋したものを【表2】に示す。

【表2】 学生の質問事項に対する保育施設教職員からの回答

項目	内容
仕事について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目は園の一日の流れを子どもと同様に覚えていくことから始まる。先輩先生方との協力のしかたや、仕事の手順などしっかり身に着ける時期。</li> <li>・保育者の仕事はたくさんあるので、先輩の方々から聞いたり、見て覚えたりしていけたらと思う。何より子ども一人ひとりをよく観察し、ふれあう事が大切。</li> <li>・制作やピアノについては苦手な仕事と考えず、楽しんで行うようにする。また、得意な先生にアドバイスをもらう。</li> <li>・職員同士でお互い助け合い、補い合う</li> <li>・活動に使用する準備物は活動日から逆算して、計画を立て間に合うようにする</li> <li>・できるのかというより、やるしかないと思う、先輩方にアドバイス、ご指導して頂きながら、頑張るのみ</li> <li>・記録等については立案したり、その日をふり返ったりする中で、子どもを思い出しながら書いている。量や内容は園によって異なると思う</li> <li>・過度な心配や不安のある保護者はいると思うが、園での様子を毎日丁寧に伝えていくことで、信頼関係を築くことが第一</li> <li>・向上心を持つこと。子どもを好きという気持ちを強く持つこと</li> <li>・「こうなりたい」という目標の人を見つけ、その目標に近づけるようにする</li> </ul>
人間関係について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩後輩がうまく合わない・・・結局、職場の成熟度だった。よい職場では、トラブルがあってもみんなの助けで解消できる</li> <li>・その都度、話し合う</li> <li>・信頼関係をつくり、細かいところも伝達し合う。</li> <li>・相手の話を聞き受け止め、こちらからも伝えたい部分は丁寧に押し付けず伝え話し、理解し合う</li> </ul>
ワークライフバランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休みは希望通り取れる事が多い</li> <li>・出産後の復帰はできる。私は一度退職したが、今は働きながら育児、家事などしやすいと思う</li> <li>・自分したい。私は家庭支障がないように考えた</li> <li>・自分のライフスタイルに合わせた働き方を考えることができる</li> <li>・仕事と育児の両立はできると思う。正職、パートなど職種を選ぶことも検討する</li> <li>・自分なりに両立できたと思う。作りものなどは、保育中に時間をみつけて作るなどした</li> </ul>
環境について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内：身近に家族がいる安心感 / 募集が少ない、県外：都心部は給料が高い / 地域性の人柄に合わないと感じる</li> <li>・県外へ出たが、うまくいかず、親にも戻ってくるように勧められた</li> <li>・地元で働きたかったから ・親の意向</li> <li>・頂いた給料の中で生活していくことを考え使う</li> <li>・余裕は多くはないと思うが、一人暮らしはできなくはない</li> <li>・地域と協力することで、子どもたちも視野が広がり、たくさんのことを覚え、習得していくことができる</li> <li>・地域と協力することで子どもの育ちにつながるが日程調整が難しい</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がむしゃらにまず動く、でも1年目は失敗OKなのでいい</li> <li>・年の近い先輩に仲良くしてもらい、不安な話をたくさん聞いてもらった</li> <li>・日々やることで精いっぱい、あっという間に1年が過ぎていった</li> <li>・休日にリフレッシュし、保育を楽しもうとすると、不安もなくなるか減ると思う</li> <li>・仕事とOFFを上手に行う</li> <li>・身だしなみなど子どもたちの手本となるように意識すること</li> <li>・安全にすごせるように配慮している。子どもの気持ちによりそい、共感すること</li> <li>・笑顔、言葉遣い</li> </ul>

※教職員からの回答は一部抜粋して記載した

学生の事前質問に多くみられた「1年目の不安」に対応する回答は様々な角度から抽出することができた。専門的スキルに関する不安については、「苦手な仕事と思わずに楽しんで行う」、「得意な先生にアドバイスをもらう」、「職員同士で助け合い、補い合う」等、精神面でのサポートになりうる回答を得る事ができた。学生間で「仕事」の次に質問が多かった「ワークライフバランス」については、自分のライフスタイルに合わせた働き方ができる職場であるといった内容を中心として、専門職で働く女性としての疑問や不安に対する回答を得る事ができた。これらの回答は多岐にわたる内容のため、学生と教職員間での意見交換の場での活用することとした。青森県内で働く女性の意見としては、地元志向、身近に家族がいる安心感や、親の意向で県外から地元に戻ってきたといった回答がみられた。

## 6. 職場体験の研修プログラム

### オリエンテーション

自己紹介及び実習目的や研修の視点や心構え、施設概要及び教職員の業務内容等



図3 オリエンテーションの様子

### ・幼稚園での職場研修

職員ミーティングへの参加、保育実践、厨房での衛生管理、記録についての研修 等



図4 幼稚園での現場研修の様子

### ・意見交換

研修の感想、学生の事前アンケートについて教職員からの回答、質疑応答



図5 意見交換の様子



②2日目の内容(保育園での研修)

・ 保育園での職場研修

保育園実践、未満児の保育やおやつへの援助などの研修

保護者への連絡帳やアレルギーノートなど記録の書き方についての研修 等



図 6 保育園での職場研修の様子

・ 意見交換、2日間のまとめ

7. 職場体験を通しての学生の振り返り

職場体験の振り返りとして手引きの最後にまとめられた学生の意見を掲載した。【表 3】

振り返りの項目は、①職場体験を通して感じた事、考えた事、②青森で働くことについて、③今回の体験を通して自分のワークライフバランスをどう考えたか、④感想等(自由記述)である。

【表 3】 職場体験を通しての学生の振り返り

①職場体験を通して感じたこと・考えたこと(原文のまま)

学生 A	今回の職場体験を通して、実習では知らなかった、保育者の仕事内容や連絡帳・日誌などを書くポイントを学ぶことができた。オリエンテーションでお話してくれた、仕事と実習の違いをバレーボールに例えたお話は、自分の今の立場やするべきこと、求められることを知ることができた貴重なお話だった。現場で働く保育者の生の声で質問に答えてもらい、自分の不安に思っていることがすっきりすることができた。
学生 B	自分が不安に思っていた1年目のことや、実習では経験できなかった書類などの書き方などを実際に聞いたり、教えていただくことで気持ち的にすごく楽になった気がしました。何度も「大丈夫」という言葉を言っていただき、自分が出来ることをやっていき、徐々に出来ることを増やしていけばいいのだと思いました。また、何でも自分自身がどうありたいかという気持ち次第でどうにでもなると思いました。まだまだ出来ない事の方が多くてすごく落ち込んでしまうこともあるかもしれないけれど、気持ちだけは強く持って、くらいついていきたいです。どんなことでも“積極的に”挑戦して失敗を積み重ねて人としてもっと成長していきたい。もっと今という時間にして、1日1日学ぶことを増やしていきたい。がんばりたい。
学生 C	実習では先生方とゆっくりお話する時間がなかったため、意見交換の場があり、じっくり自分の将来について考えることが出来ました。実習とは違い、自分からキャッチボールをしに行く話を聞いて、実際に職員の立場で現場に出ると、常に周りを見て進んで仕事をしに行かなければならないので大変でした。でもこの体験で達成できたこと、出来なかったことを次の現場でも生かして行動できたらなと思いました。
学生 D	今年、就職活動をするにあたり、どういった点で見極めていくといいのか、どういった園が良いかを選ぶ基準がよくわかった。また、実習中の反省点を次の実習の前に実際に気をつけて行うことでイメージが現実となりスムーズにできるのではないと思う。連絡帳や書類の書き方を体験できたことは就職した際に強みになると思うので良かったと思う。 「保育士」を客観的に見れたことで、自分の中にも保育園の先生は印象に残っている先生が多いということから「子どもたちにとって初めての先生である」ということを忘れず常に全力で仕事をしていこうと思った。

学生 E	今回の職場体験を通して、現役の保育士の方々に質問をして生の声を聞くことができ、保育士という仕事に希望を持つことができました。不安に思っていることはほとんどの保育士の方が乗り越えてきているので、私も頑張ろうと思えました。また、初めから期待されていないので、できなくてあたりまえ、できることからやっていけば良い、という現役の保育士の考え方を知り安心しました。私は自分を責めすぎたり、周りを気にしてしまう性格なので、心にゆとりを持っていこうと考えられるようになりました。できることからはじめ、失敗を恐れずチャレンジし、子どもが幸せだと感じる保育・教育をしていきたい、と改めて思いました。
学生 F	実習とはまた違う気持ちで職場体験をすることができました。なかなか直接保育者の声を聞くことができないのでとても貴重な体験だったと思います。園や職場、個人にもよりますが実習園しか知らず、実習園でも保育者にあまり働くことについて話すような時間も無く、聞けそうな雰囲気でもなかったため、今回のような機会に参加して本当に良かったと思います。
学生 G	今まで実習でしか、栄養士の仕事を体験したことがなかったが、今回の職場体験で実際に栄養士がいるところで仕事を手伝ってみて感じたことは、すごく重要なポジションにある職業だと感じた。授業の実習だと「とりあえずつくればいい、目標値にあっていればいい」と思っていたが、それだと全然だめだと思った。もっと対象者の人に合った食事提供の方法を考えなければいけないと考えるようになった。これからの実習は、もっとこのことを考えながら行う。
学生 H	就職してからの1年、2年は、失敗しても気にせずあまり考えすぎないことが大切だと感じました。 園によって考え方、やり方は違うため、自分に合った就職先を見つけること⇒下見、調べることが大事。 最初は真似でも良いということ、園のやり方に慣れてから自分のやり方で進めていくことが大切だと感じた。

### ②青森県で働くことについて(原文のまま)

学生 A	地域と一緒に安定した保育をすることが大切であると知ることができた。県内で働くということは親も近くにいるということで、自分の負担を減らしてくれる。壁面などの仕事が多いときには、家族に手伝ってもらおうという保育者もあり、これは一人暮らしなどではなく、県内で家族と住んでいる人の特権だと思った。
学生 B	春夏秋冬でのカラーがあるからこそ、そのカラーを活かした保育・教育を展開できることがすごく魅力だと思いました。また、家族がいることの安心感や友だちが多くいることで切りかえを上手にできるのかと思いました。今まで県外にでてみようかと考えていましたが県内に就職し、地元で活躍したいという気持ちも強く生まれました。たくさんの園を知り、じっくり考えていきたいと思いました。
学生 C	私はずっと地元で働くことを考えていたので、県外で働くことは考えたことはありませんでした。地元から園に通うことは経済的にも困らないと思ったからです。でも今回青森での一人暮らしは経済的にどうかという質問に対して、余裕ではないが普通に負担がなく暮らせているという答えだったので、また地元の園だけでなく、もっと色々な地方の園の雰囲気も体験してみたいと思い、県外にするかも迷いはじめました。
学生 D	私は県外を希望していたが、今回の研修でたくさんいろいろな園を見学し、自分はどんな保育をしたいか、それに合う園はどこか等考えることが大切だと思った。
学生 E	青森県で働くという事は地元という安心感、慣れ親しんだ地域ということもあって、長く働きやすいのではないかと思います。長い間、青森に住んでいるため、知識もOではないので子どもたちに色々教えることができると思います。方言の問題の話を聞き、方言を気にするのであれば、気を張らなくていい青森で働くことがストレスにならないと思います。青森で働くことについて不安なこともあります。都会と比べ、園もそんなに多くなく交通の関係で就職の幅が狭まることです。
学生 F	私は秋田出身で地元に戻るか、関東に行くか…などとばかり考えていましたが、今回たくさん話を聞き、場所で見るときではないと思いました。どの場所かも大切ですが園の考え方、やり方が自分に合うかどうかも見るときなのだと思います。
学生 G	都会の方に行っても働くほうが、給料的にもいいと思っていた。また、求人の方も多量に思っていた。だから、青森県で働くよりも全然いいと思っていた。しかし、今回の研修で“青森県で働くとしんが近くにいて、地域の人が助けてくれる、安心できる”ということを知った。都会には、これは絶対ないものだし、簡単に手に入れることができるものじゃない。このことをきいて、私は青森県で働きたいという気持ちが強くなった。
学生 H	地元で働くことは、親や友達もいて安心して働くことができると思う。また、住んでいたところで働くため、自分に合った働き方ができるところが多いと思う。県外だと考え方の違いや差があるため合う、合わないがある。

### ③今回の体験を通して自分のワークライフバランスをどう考えたか

学生 A	働く園の体制によって違いはあるが、産休・育休をとり、子どもを産んでから仕事に復帰していた保育者がたくさんいた。正社員で働くこと以外にも、パートとして働くことで自分の都合のいい時間帯で働き、家族との時間を確保している保育者もいた。自分のワークライフバランスに合った園を見つけることも重要である。また、家族で協力して、過ごす時間も作っていた。
学生 B	体調を崩してしまったりすることは、人なので絶対あるのでそんな時、いかに園全体でお互いに協力し合えるかが大切だと思いました。結婚や出産をしても、仕事を続けられるというお話をいただき、絶対に続けたいと思いました。また、しっかりON・OFFの切りかえをちゃんとして休む時はガッツリ休む、やる時やるというメリハリをつけて仕事をこなせるようにになりたいです。
学生 C	今まで保育士は子育てとの両立が難しいのかなと疑問に思っていたが、今回、先生方のお話を聞いて、皆さんは子育てとの両立をしてきて、家族の支えだったり、自分の保育士としての経験を生かして上手に子育てしてきたと聞いて自分もまだ先の事ですが実際に自分が結婚して子どもが生まれた時のことを今から少しずつ考えていこうと思いました。

学生 D	本当にとても良い経験になった。自分が疑問に思っていたことや不安がとても多く減り、就職することを期待に胸を膨らませている。今後、県内外の園をもっと見てみたいと思った。
学生 E	子どもを出産してからも働けるということがわかったので安心しました。園にはよるけれど休みも取れるし、パート、正職員としての道も選べることを知り、生涯働いていきたいと思いました。幼稚園は長期休暇がある、保育園は適当な間隔で休みがあるので自分はどっちが合うのかをまず考えなければならぬと思いました。自分に合う、合わないも大切ですが、時間管理が大切だと思うので働いてからも時間管理をし、生活と仕事のバランスをとっていくことを大切にしていこうと思いました。
学生 F	実習で先生たちの姿を見ていると何でもうまくこなしているように見えていたので、直接聞くことができなかつたです。自分の計画性ややる気を持ちようでどうにでもなるのだと分かりました。がむしゃらに出来る事を一生懸命やるのが大切なのだ学びました。
学生 G	アレルギーの子に対してもすごく工夫していたり、親との連絡、やりとりもすごく大事にしていた。もっとコミュニケーションの力を必要とすると感じた。保育士よりも実際に親御さんたちとコミュニケーションをとることは難しいと思うが、今以上に人との関わり方についてもっと考えなければいけないと感じた。
学生 H	無理をせずにまわりに相談することが大切だと感じた。子育てが大変だと思ったらパートとして働くのも1つの考え！

#### ④感想等(自由記述)

学生 A	実習では知ることのできなかつた部分の仕事を知ることができた。実習が終わり、より具体的になつた就職への不安や実習で聞けなかつたことなどを解消することができた。自分の保育者像や子どもを〇〇したいといった保育・教育の根本を明確にするためのきっかけとなつた。
学生 B	今回、2日間というすごく短い期間ではありましたが、すごく濃くて学びが多い2日間でした。実習では聞くことができないようなお話をたくさん聞くことができたり、具体的な思いなどを生の声で顔を見ながら聞かせていただくことで、すごく自分自身と向き合う機会になりました。実習や今回の研修を終えて、普段、大学の先生方がおっしゃっていることがどれだけ大切なことなのか、改めて気づくことができたり、今まで以上にもっとしっかり勉強していきたいと思いました。どんな園に就職しても、結局全部自分の考え次第でどうにでもなるし、自分の人間性が一番大事なことなのかなと思いました。今回、先生方のお話を聞いて部活のことを思い出しました。最初は1音出すだけでも難しいけれど基礎練を毎日積み重ねていくことで曲を吹けるようになるという感じで、毎日の積み重ねをちゃんとできるかどうかで何年後かの自分に全て影響するのではないかなと思いました。自分に負けないで強い気持ちを忘れずに絶対に自分が理想とする保育者になりたい。このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。すごくためになることばかりで自分自身が変われた気がします。
学生 C	今まで自分が考えたことがなかつたキャッチボールの話や連絡帳の書き方を体験できて VAK を、交えて書く難しさも知ることができて本当に良い時間だつたと思いました。2日間という短い時間の中、沢山のお話が聞けたし、働く女性の目線で見ると実習の時とはまた違って、積極的に食いついていけた自分がいたのよかったです。この経験を次の実習や働いたときに思いだして行動したいです。
学生 D	自分が保育士になつたらこうなりたいという考えが自分の中で明確になつてきた。今後もこのような活動があつたら参加したい。
学生 E	現役の保育士の方とお話や意見交換ができ、保育士になるということに希望をもつことができ、また安心することができました。保育士の仕事だけではなく生活のことも聞くことができ、今から意識していこうと思いました。このような機会だからこそ、たくさんのお話を聞くことができ、また体験することができ、とても勉強になりました。
学生 F	本当に良い経験ができました。参加してよかつたです。今回、話を聞くまで本当に不安でいっぱいだったのでこれからは前を向いて、自分なりにがんばりたいと思います。
学生 G	初めて、栄養士の仕事というのをきちんとみた。ただ、食事を提供するだけでなく、調味料にこだわっていたり、給食ノートでアレルギーについてやりとりしていたりと、すごく大変そうに感じた。しかし、そのくらい大事で重要な仕事なんだと改めて感じた。自分が目指している栄養士という仕事は大切な役割をもつ仕事ということを心にひめて、もっとがんばりたいと思った。
学生 H	今回はインターシップや実習と違って仕事面だけでなく、生活面のことも聞くことができ良かつたです。

#### まとめ

職場体験初日のオリエンテーションの中で、副園長からの助言の1つである「保育の仕事はチーム戦である」という言葉に多くの学生が共感を得ていた。

「得意不得意を認識した上で、何か1つ自分の得意分野を活かし、得意分野を求められる人になる。」「実習とは違うところとして「仕事をもらいにいく」のではなく、「仕事をとりにいく」姿勢が大切である。まずはボール拾いから始め、次に狙って拾いの確に返す。与えられた仕事を的確にこなす報告する。コートの中(先生方)をみることで、素早くボールをかえせるようになる。」という内容のものであつた。その他については、「現場は初年度から完璧を求めているわけではないが、失敗を振り返る事で、

目の前の子どもの保育について「常によりよく」向上心をもって保育にあたっている」という現職教員の言葉に感銘を受けている記述も振り返りの中で数多くみられた。学内での事前オリエンテーションで抽出した自己課題および質問事項においても1年目の不安等が大きいことが予想されたが、オリエンテーションの段階で将来の自分の姿と重なり合わせた現場教員の言葉や体験を知ることによって、それらの不安が軽減された事は、学生の精神面を支える大きな成果であると言える。

「幼稚園・保育園」で働く専門職としての自分のイメージに加えて、結婚や子育てをしながら専門職を続ける女性としてのワークライフバランスイメージ、さらに子どもと家族と共に生きる家庭の中での女性のイメージという将来のトリプルイメージ効果が、学びの構造ブロックから予想された。また、【表3】に示した職場体験の全体的な振り返りの内容からは、職場体験の成果と今後の課題が見えてきた。学生たちは実習で体験することが難しい実際の連絡帳への対応や職場ミーティングという体験を通して、具体的な仕事のイメージを持つと同時に、専門職として働く事への希望や安心を得ている。また、地元で働くことへの肯定的なイメージや、生活面での不安の解消もみられた。働く女性との意見交換から、結婚、出産、育児に合わせた実際の働き方の例を具体的に知ることによって、女性としてのワークライフバランスのイメージを持ち、近い将来の職業選択の視野を広げることに繋がったと推察する。

#### 今後の課題

近年、青森県内の養成校で学んだ新卒者の首都圏流出が増え続けた背景には、保育士不足の解消されない現実からの多大な求人、保育者の処遇改善の問題から地方よりも給与が高いなどの様々な影響が生じている。学生の自由意志で就職ができることは自明のことではあるが、保育者の早期離職が多いことは解決に至りにくい問題の1つである。

2年間、憧れの保育者になりたいという夢の実現に向けて努力してきた新卒保育者を、どのように育てていくのか。現場に出てからのギャップで悩み人間関係で疲弊してしまう負の姿ではなく、保育・教育の専門職として働き続ける職業人であってほしい。

今回、2園に協力を得て実施した職場体験プログラムは、学外実習とは異なる視点での仕事・働く女性の側面から見聞きでき、将来の自分を熟考できる機会であった。このような職場体験を実施していくためには、養成校と保育施設双方の共通理解が得られなければならない、より充実したキャリア形成、職業意識の向上、地元で根差した人材育成を目指す時、保育現場と養成校が協働で組織的な取り組みをしなければならない。そこには大きな意識改革が必要である。人を育てることは、地域の宝である子ども達を育てることであり、その事がさらに地域の教育・保育力、生活を豊かにすることにも繋がっていくと考える。

#### 参考文献

- 1) 塩見和子 他 看護大学生が看護専門職のキャリア形成のために求めている支援インターナショナル nursing care research 16(1), 51-60, 2017
- 2) 佐伯 加寿美 学びを深めるプログラムデザインとロールモデルや先輩が創るキャリア教育:「女

子大学生キャリア形成セミナー」の実践から（女性の初期キャリア）--（実践の展開）NWEC 実践研究 (7), 115-131, 2017

- 3) 藤野真 働く環境を学ぶ（大衆化した大学における学生の就業意識とキャリア形成支援(2)）--（大学生のキャリア形成支援に関するアクション・リサーチ）福岡大学研究部論集．A, 人文科学編 = The Bulletin of Central Research Institute, Fukuoka University 15(4), 7-14, 2016
- 4) 横田明子 女子大学生のキャリア形成意識とワーク・ライフ・バランス 広島大学大学院教育学研究科紀要．第二部，文化教育開発関連領域 (65), 265-271, 2016